

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立上之郷小学校 第6学年、児童

実施児童数（40人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語、数学及び英語。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については、国語及び算数・数学においては、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。英語においては、選択式、短答式及び記述式の問題に加え、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- 平均正答率は全国と比べてほぼ同じであるが、分布の広がりがほぼ一様である。下位層で突出した部分が一部に見られる。

平均正答率（本校 61／泉佐野市 59／大阪府 60／全国 63.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>2 二 梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する。 (85.0/88.5)</p> <p>3 一 畳職人への【インタビューの様子】の□に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する。 (82.5/81.3)</p>	<p>1 三 調査結果の内容と結果の（1）と（2）で分かったことをまとめて書く (32.5/28.8)</p> <p>1 四（2） 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す。 (42.5/47.8)</p> <p>1 四（1）ウ 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す。 (かんしんをもってもらいたい。) (40.0/35.6)</p> <p>2 一（2） 疑問に思ったことの②に対する答えになるように考えて書く。 (62.5/75.9)</p> <p>3 三 畳職人の仕事への思いや考えに着目して、心に残った事を書く。 (57.5/68.2)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は大切だと思いますか	82.5	68.6	○	13.9
国語の授業の内容はよく分かりますか	70.0	41.2	○	28.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.0	64.2	○	20.8
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	60.0	37.2	○	22.8
国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	42.5	30.3	○	12.2
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	90.0	80.4	○	9.6

○自分の考えをまとめることに課題がみられる。

○自分の考えをもちながら読むことに課題がみられる。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- 平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて下位層が多い。

平均正答率（本校 64／泉佐野市 65／大阪府 66／全国 66.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
3（1）350－97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。 (90.0/81.8)	1（3）減法の式が示された形の面積をどのように求めていくかを数や演算に表す内容に注目して書く。(40.0/43.9)
1（1）長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ。(85.0/93.1)	3（2）減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるかを書く。(37.5/31.1)
2（1）1980年から2010年までの十年ごとの市全体の水の使用について棒グラフからわかることを選ぶ。(87.5/95.2)	3（4）1800－6は何メートル分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。(42.5/47.0)

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は大切だと思いますか。	85.0%	75.6%	◇	9.4
算数の授業の内容はよく分かりますか。	67.5%	49.3%	○	18.2
算数の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つと思いますか。	90.0%	72.3%	○	17.7
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	67.5%	48.4%	○	19.1
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか。	52.5%	57.5%	◇	5.0
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。	87.5%	80.7%	◇	6.7

○式の意味を考えることに課題がある。

○面積の意味理解について課題がある。

○問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書くことに課題がある。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校 回答率 / 全国 回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○規則正しい生活を送ることができている。</p> <p>○家族と話をする時間が多く、自己肯定感が高い児童が多い。</p>	<p>(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか <87.5/81.4></p> <p>(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか <100/91.6></p> <p>(4) 家の人と学校での出来事について話をしますか <85.0/77.4></p> <p>(5) 自分には、よいところがあると思いますか。 <87.5/81.2></p> <p>(8) 将来の夢や目標を持っていますか <u><95.0/83.8></u></p> <p>(10) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか <95.0/79.0></p>
【家庭学習の様子】	<p>○計画を立てて宿題や予習などの家庭学習をしている。</p> <p>○本や新聞を読む時間が少ない。</p>	<p>(17) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか <80.0/71.5></p> <p>(21) 読書は好きですか <72.5/75.0></p> <p>(22) 新聞を読んでいますか <u><7.5/19.0></u></p>
【学校での学習の様子】	<p>○課題解決に向けて自分の考えをまとめ、発表することができる。</p>	<p>(29) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。 <85.0/74.1></p> <p>(32) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。 <87.5/74.0></p> <p>(34) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。 <92.5/80.9></p>

本校の取組

◎これまでの取組

本校は「ことばの力を高め言語活動の充実のある授業づくり」を研究テーマに国語科を土台として児童のことばの力、問題文を読み取る力を高め、主体的・対話的で深い学びにつながる聞く力・話す力・書く力を含めた表現力の育成をめざし2年目となる。

基礎基本の定着に係る取組みでは、昨年度に引き続き、

- ・教室の前面の掲示物をユニバーサルデザインの観点から減らすよう統一
- ・学習規律の徹底として、チャイムと同時に授業が始められるよう共通した意識をもった取り組み
- ・朝の学習の時間に、週単位で国語と算数を交互に実施し、漢字や計算の他、既習事項の定着を図る問題や、自分の考えを簡単にまとめる練習や説明を書く練習
- ・大阪府の「ことばのちから」プリントの活用

言語活動の充実に向けては、

- ・児童自らが「つけたい力」「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を意識した授業づくり
- ・文章を読んで要約したり、府提供「ことばのちから」を活用し「読み取る力」が向上する授業づくり
- ・学びの広がりや深まりのあるペア、グループ学習を生かした学び合う場面を工夫した授業の展開
- ・書き方の型を示す・書く時間を確保する等、児童が安心して考えを書きすることができる工夫
- ・アンケートなどを通して学級の実態や、個々の児童の実態把握を基にした学級経営
- ・学期ごとに1週間「家庭学習強化週間」を設けるなど家庭学習を充実させるための取組みを行っている。

◎これからの取組

1. 国語科において

- ①「読む」の領域では、図表やグラフを用いた目的を捉えたり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えをもちながら読むことに課題が見られる。問題文を読む際は問題文を最後まで意味や問われていることを考えながら読む習慣をつけるとともに、主体的に読むために、読んだ後お互いの感想を交流するペア・グループ学習の時間を大切に指導していく。
- ②「書く」領域では、2つの文を接続詞を使って1文にまとめたり、自分の考えをまとめることに課題が見られる。授業の流れ（「めあて」「まとめ」「ふりかえり」のある授業）の中での「まとめ」や「ふりかえり」の場面を大切にするとともに、考えをまとめる力の育成のために、「書き方の型を示す」「字数を指定する」「キーワードをいくつか示すなどの条件提示」などの工夫を入れながら書かせていきたい。また、国語科の「書く」領域と他教科での資料調べなどを教科横断的に指導することで、書く機会を増やすとともに、府提供の「ことばのちから」プリントを朝の学習で引き続き活用し、書く力の指導をしていく。
- ③「話す・聞く」領域では、目的に応じて、質問を工夫する問題に課題が見られた。話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をより伝わりやすく簡潔に行う指導を国語科の時間はもちろん、朝学習のコミュニケーションタイムなど機会を捉え日常的に行っていきたい。

2. 算数科において

- ①図形領域では図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題に課題がみられる。低学年のうちから具体的に図形にふれながら、系統立てて抽象的思考を養う指導を充実させる。
- ②数学的な考え方で、資料の特徴や傾向を関連づけて理由を述べたり、面積の求め方や式の成り立ちの意味を説明することに課題が見られる。資料の見方については、算数科のみならず、他教科でもグラフの読み取りについて丁寧に指導していく必要がある。また、公式を使って計算するだけでなく、公式の意味を理解した上で立式できるよう指導していく必要がある。
- ③考える力やことばの力を高めるために、答えだけではなく、答えにいたる理由を既習事項を使いながら、言葉や式でノートなどに自分の考えを書く機会を大切に、子どもたち同士で問題を作ったり、解きあったりするなどのペア学習やグループでの学習の充実を図る。